

まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート

第 2 期総合戦略の成果について

令和 7 年 6 月

目 次

基本目標	事業名	担当課
1 稼ぐ地域をつくるとともに、 安心して働けるようにする	1. 宝の土地活用推進事業	企画情報課
	2. サテライトオフィス推進事業	商工観光課
	3. 起業・創業バックアップ事業	商工観光課
	4. 官民共創まちづくり戦略事業	商工観光課
	5. スポーツイベント振興事業	生涯学習課
	6. ふるさと会交流促進事業	商工観光課
	7. 宝のなぎさ交流促進事業	商工観光課
	8. 農産物等ブランド化推進事業	農林水産課
	9. 新規就農者支援事業	農林水産課
2 本町とのつながりを築き、 本町への新しいひとの流れをつくる	10. 民間賃貸住宅建設補助事業	地域整備課
	11. 宝の住まいる応援事業	企画情報課
	12. 宅地造成事業	地域整備課
	13. 空き家バンク事業	企画情報課
	14. 若者通勤サポート事業	企画情報課
	15. 奨学金返済助成事業	企画情報課

3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	16. 子育て世代包括支援センター活用事業	子育て応援室
	17. 不妊治療費助成事業	子育て応援室
	18. 未就学児の教育保育の質の向上	子育て応援室
	19. 児童遊戯施設整備事業	子育て応援室
	20. 宝たち成長お祝い事業	子育て応援室
	21. 宝たち検定チャレンジ事業	学校教育課
	22. 宝たちビジネスアカデミー事業	生涯学習課
	23. 宝の縁結び事業	子育て応援室
4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	24. 一般介護予防事業	健康福祉課
	25. 認知症総合支援事業	健康福祉課
	26. 在宅医療・介護連携推進事業	健康福祉課
	27. 地域包括支援体制の整備	健康福祉課
	28. 健康増進事業（がん検診）	健康づくり推進室
	29. 健康増進事業（特定健診・保健指導）	健康づくり推進室
	30. 地域組織育成事業	健康づくり推進室
	31. 地域交通政策推進事業	企画情報課
	32. 地域行事サポート事業	総務課

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	1. 宝の土地活用推進事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	企業誘致の推進		
事業内容	企業誘致に適した用地の確保や企業が立地しやすい基盤整備を促進する。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
	企業立地促進及び商工業振興条例に係る助成金交付件数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0

計画期間に 実施した内容	今浜細見団地（旧ムラケン跡地、今浜イ5番21ほか）については、町営住宅地及び宅地造成地として地域整備課で施工し、宅地の販売については、財政課で行うことを決定した。 地域整備課では、旧ムラケン跡地での町営住宅建設及び宅地造成に向けて準備を進めていたところ、令和6年元旦に能登半島地震が発生し、旧ムラケン跡地での開発事業は白紙となった。 【参考】第1期期間中には、志雄中学校跡地の未利用敷地の利活用を図るため基本構想を策定した（平成31年3月）が、子浦川の浸水想定区域に入ることが判明し、計画は一旦保留となった。
今後の課題	宝の土地活用推進事業が町有地を活用した企業誘致を推進する事業なのであれば、企業がすぐに進出可能な土地の基盤整備を実行していかなければならない。用地整備もしないまま企業誘致を推進しても、企業が当町に進出する際の選択肢とはなりにくく、積極的に誘致を進めていくためには、行政としても可能な限りの受け入れ準備をする必要がある。
内部評価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	672	0	0	0	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	2. サテライトオフィス推進事業		担当 部局	商工観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	企業誘致の推進		
事業内容	空き家、空き店舗等を活用したサテライトオフィスを誘致し、若者の地域定着を促進するため、企業等のニーズに対応した環境整備に取り組む。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度(%)		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		100.00%	
	サテライトオフィス誘致件数		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
			0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1

計画期間に 実施した内容	- 令和2年12月に、県補助金に準じた補助金制度を創設。 - 令和4年1月～3月に、決裁者マッチングツールを利用して、副町長と企業の決裁者が直接、面談を行った。 - 令和4年7月に、決裁者マッチングツールにて繋がった東京都の(株)アースリンクとの間でオフィス開設に向けての合意書の締結に至り、町は社員募集等について支援を行った。同社は、町のお試しサテライトオフィスを利用し、利用期間中に新オフィスの雇用を確保する方向で進めた。 - 令和2年度にサテライトオフィス立地促進補助金制度を創設したが、企業からの問い合わせはない状況。 - お試しサテライトオフィスについても、(株)アースリンクのほかに問い合わせがない状況。 (株)アースリンクは、お試しサテライトオフィスの利用期間（R4.7～R5.6）をもって撤退した。 - その後の問い合わせ等も特になし。
今後の課題	- 企業が参入しやすくするためには、お試しサテライトオフィスの整備及び進出を希望する企業に提示できる空き物件、空き土地を整理する必要がある。 - まちづくりの戦略を策定していく中で、まちづくりに欠かせない業種等を明確にしたうえで、それに合致する企業誘致の推進を検討したい。
内部評価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	0	1,089	492	0	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	3. 起業・創業バックアップ事業		担当 部局	商工観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	町内での起業・創業を目指す相談・応援体制の整備		
事業内容	町と創業支援事業者（金融機関、商工会等）が連携し、町内で起業・創業を目指す方に対して、相談・応援が出来る体制の構築を図る。			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		達成度 (%)		0.00%		400.00%		500.00%		200.00%		300.00%	
		目標値		実績値		目標値		実績値		目標値		実績値	
	創業相談※による起業 件数：5年間で5件	1	0	1	4	1	5	1	2	1	3	5	14

※創業相談とは町、商工会、のと共栄信用金庫、北國銀行、日本政策金融公庫への創業相談及び創業塾の受講を指す。

計画期間に 実施した内容	平成28年度から商工会と町が協力し、起業希望者を対象として創業塾を開催や、金融機関と連携した創業に関する相談窓口を設置している。これまで計22人が起業している。その他、起業準備を進めている者が数人おり、商工会の専門員が起業相談を継続している。 令和6年9月には創業塾2024が開催され、受講者11人の内3人が創業に至った。 起業しようと考えている人や更なる成長を目指している起業後間もない事業者を対象に、起業に係る基礎知識習得のための創業塾を開催している。また、商工会や金融機関と連携し、創業等支援相談窓口を設置し、起業希望者の相談に応じている。 令和3年度より、中部経済産業局ほくりく創業支援ネットワークが設立され、石川県、富山県の市町村、事業者支援関連団体等による意見交換会を行っている。
今後の課題	創業相談者数、創業件数ともに順調に推移している。起業を行う背景は、収益性や地域から求められているかといった要素が重要となってくるため、物価高騰や能登半島地震の影響下で創業者を増加させるためには、どのような町にするか、町全体の方針を明確にし、改善させていく必要がある。 現状の取組の継続。 地域に賑わいをもたらす業種等を明確にするため、(1)キッチンカーやコンテナハウスの開業、第二創業、事業継承を対象に追加。(2)加算要件では、転入、雇用加算に加え、地域資源を活用した商品開発やサービスの提供をする場合など加算額を拡充する要綱に改正済み。（令和6年4月1日改定） 商工会の経営発達支援計画（令和6年4月から令和11年3月までの5年間）に基づき、さらに連携を深め、創業支援等、事業促進を図っていく。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	208	3,828	6,288	2,525	3,958

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	4. 官民共創まちづくり戦略事業		担当 部局	商工観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする		
	施策	観光産業の振興		
事業内容	本町の地域経済の好循環及び地域の振興を図るため、商工、農林畜水産業、観光、文化、移住・定住促進関係等、まちづくりに関わる多様な関係者がそれぞれの立場を超えて、「宝達志水町官民共創まちづくり戦略」を共に創り上げるとともに、戦略に関わる関係者の役割を明確にして、効果的かつ効率的に戦略を実践し、新たなまちを創るもの。			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)	83.51%		93.21%		107.53%		109.16%		114.94%	
	ポイントカード会員数 (CRMマーケティング対象者)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		10,750	8,977	10,950	10,207	11,150	11,990	11,350	12,390	11,550	13,276

計画期間に 実施した内容	- 令和4年度は民間事業者と共にまちづくりの指針となる「宝達志水町官民共創まちづくり戦略」の策定に向けた取り組みを開始。1次産業に2次、3次産業をかけあわせて、食の高付加価値を創造する「口能登・美食のまち」を柱に実践に向けて取り組みはじめたところ。官民共創まちづくり戦略会議設置要綱を施行し、民間の方6名に委員を委嘱。委員と共にビジョンを決定し、関係者への意見ヒアリングを行った。先進地となる宮城県気仙沼市への視察も実施した。 - 令和5年度は、戦略会議を2回、庁内横断的打合せを1回、宝達区を考える会を3回、外部専門家との打合せ等を行った。 - 官民共創まちづくり戦略に盛り込み実践する主な内容は以下のとおり。 ①食の高付加価値創造に向けた取り組み ②観光スポットの整備 ③体験型商品の開発 ④マーケティング・プロモーションによる消費拡大、誘客 ⑤推進体制の構築準備 当該戦略は第二次宝達志水町総合計画における産業版の実施計画の位置付けとなるもの。 - 令和6年度は、震災復旧が最優先の状況であることや庁内の人員体制もあり、一時中断。ただ、地方応援隊（農林水産省、国土交通省）と意見交換を重ね、「持続的に稼げる地域づくり」の方策をコンセプトペーパーとしてまとめ上げると共に体験型観光商品の開発も行った。
今後の課題	- 令和6年度は震災復旧が最優先の状況であり、官民共創まちづくり戦略を実践するための役場内の組織改正を含めた推進体制の構築（事務局の体制構築）ができなかった（商工観光課と関係部署との連携）。 - また、行政だけでなく、多様な人を巻き込んだ民間事業者、関係者、行政の役割分担ができる体制づくりが必要と考える。 - まちづくりを担う人材の発掘、人材育成。 - ポイントカード会会員データを活用したマーケティングやプロモーション展開と町外会員数の増加。
内 部 評 価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	12,981	32,172	29,318	285	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	5. スポーツイベント振興事業		担当 部局	生涯学習課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	観光産業の振興		
事業内容	町内のスポーツ資源、観光資源を活かし、スポーツ関係のイベント開催、合宿誘致を通じて、スポーツによる交流人口の拡大を図るとともに、スポーツツーリズムの環境を整備し、誘客の体制を整え、地域経済の活性化につなげる。			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		達成度 (%)									
	ポイントカード町外会員数 (CRMマーケティング対象者)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		3,399	3,599	3,500	4,188	3,600	5,065	3,700	6,243	3,800	6,581

計画期間に 実施した内容	・スポーツによるまちづくりを推進するため、地域おこし協力隊を受け入れ、スポーツイベントの開催に向けた仕組み作りを行った。 ・NPO法人宝達スポーツ文化コミッションのポイントカード会に加盟。 ◎スポーツ施設 13施設 ◎スポーツイベント ・宝浪漫マラソン（本大会の代替としてFREE-RUNを3日間開催し、県内外から324名が参加） ・宝達山ヒルクライム（イベント運営に必要な人員を確保できず、中止となった。） ◎ポイントカード町外会員 5,065人（R5.3.31）→6,243人（R6.3.31）※1,178人増→6,581人（R7.3.31）※338人増
今後の課題	・施設利用者やスポーツイベント参加者の属性やアンケートによる意向の把握。 ・既存のスポーツ資源のほか、観光及び自然資源やスポーツイベント、ゴルフ場など民間施設との連携。 ・建物の改築工事を行っていない施設については、老朽化が著しい。 ・合宿誘致としての宿泊施設がない。 ・宝達スポーツ文化コミッションと町内店舗の連携強化により地域経済の活性化を進める。 ・これまでの施設利用者やイベント参加者の入込数等のデータ化を進める。 ・合宿の誘致については、宿泊施設として廃校の有効利用が理想と考えるが、今後検討が必要。 ・①スポーツ施設やマラソンなどのスポーツ資源、②山・海・海岸などの自然資源も含めた観光資源、③ゴルフ場などの民間施設などの活用、それらを融合させて交流人口及び関係人口の拡大を図り、ポイントカード町外会員数を増やしていきたい。
内部評価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	4,127	2,550	6,294	6,000	500

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	6. ふるさと会交流促進事業		担当 部局	商工観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	観光産業の振興		
事業内容	関東ふるさと会と連携を図り、交流人口の拡大による賑わいの創出やまちづくりを進めることで、持続可能な地域づくりに繋げる。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		104.59%		106.76%		109.29%		112.24%		109.60%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
	ポイントカード県外会員数 (CRMマーケティング対象者)	675	706	725	774	775	847	825	926	875	959

計画期間に 実施した内容	・SSTR2023がR5年5月に開催。実行委員会を立ち上げ、本町独自の歓迎イベントを実施した。関東ふるさと会や商工会等の関係団体と共に取り組んだ。 ・関東ふるさと会の第7回定期総会を7月に神田明神の明神会館で開催した。 ・同じく7月に関西ふるさと会も設立総会を新大阪ワシントンプラザホテルで開催。会員と町との信頼関係の構築に努めた。 ・R6年のSSTR2024についても、引き続き実行委員会が主体となって、地震からの復興のために10月に時期をずらし、歓迎イベントを実施した。 ・ポイントカード県外会員 対前年度比 33人増
今後の課題	・関東ふるさと会の新規会員の加入（特に若年層や中年層） ・町外のポイントカード会員に対するポイントカードの取組みや観光情報を発信するツールの構築 ・本町への体験ツアー実施などによる交流人口の拡大 ・関東ふるさと会の新規会員の加入については、行政としても加入を呼びかける。 ・関西ふるさと会については、引き続き、会員間や町との信頼関係の構築を図りながら、会のより具体的な活動方針を少しずつ方向性を出していくことが必要。 ・定期総会の開催や活動内容など町広報誌やホームページ等で周知していくとともに、会員の募集、拡大を図っていく。
内 部 評 価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	50	100	100	100	400

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	7. 宝のなぎさ交流促進事業		担当 部局	商工観光課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	観光産業の振興		
事業内容	今浜海岸の千里浜景観地（町有地部分）について、浜辺を活かした新たな交流拠点を創出し、誘客促進を図る。			

重要業績指標 (K P I)	※暦年	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	達成度 (%)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%			
	進出事業者	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		1	0	1	0	1	0	1	0	1	0

計画期間に 実施した内容	開発事業者候補と令和3年9月28日に事業用定期借地権設定予約契約を締結していたが、令和5年1月に開発事業者候補から予約契約解除の申し入れがあり、令和5年2月に予約契約を解除したもの。開発事業者候補からの予約契約解除申し入れの理由としては、千里浜なぎさドライブウェイの慢性的な通行止めの状況により、当初想定した収益は見込めないとのこと。 令和5年6月に募集要件を見直し再公募したが、応募を検討していた事業者が諸事情により応募を断念した。 その後、当該用地での開発に興味を示す事業者から提案を受けるものの提案は見送った。今般の予約解除の理由にもなったが、千里浜浸食が顕著となっており、今後の千里浜の養浜等の取組を注視する必要がある。その他、今浜海岸の見晴らし道路が令和5年3月に町道認定、4月に舗装工事が行われた。
今度の課題	当該用地において、千里浜なぎさドライブウェイの通行確保は重要な要素である。 町有地に隣接する県町共有地の活用も視野に入れていく必要があり、令和6年度に県へ見晴らし道路に隣接した砂地の駐車スペースとなっている所に採石を敷設し、駐車しやすくなるような改良工事の要望を行った（浜茶屋設置スペースの左右約8m×約440m）。 新たな開発事業者の公募については、まだ一定程度の時間を要することが想定される。 利活用については、地震の影響を鑑みながら、多面的に検討していきたい。 引き続き国・県・近隣市町と協調し、養浜・護岸等に努める。
内 部 評 価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	0	550	33	682	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	8. 農産物等ブランド化推進事業		担当 部局	農林水産課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	町独自のブランド品のPR・開発		
事業内容	町独自のブランド品の構築と熟成を目指し、農業生産団体事業者等によるPRや商品開発等に対し、必要経費の一部を助成することで、農産物等のブランド化を推進し、付加価値を高め収益の増加につなげ、産業の活性化を図る。また、ふるさと納税の返礼品につながる農産物の商品開発等にも努める。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)		200. 00%		200. 00%		2700. 00%		3000. 00%		2400. 00%		2833. 33%	
	農産物等のブランド化 取り組み件数		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
			0	2	1	2	1	27	1	30	0	24	3	85

実施した内容	・「黒蜜姫」の販路拡大等を図るため9月に東京の高級果物専門店で生産者と6年連続となるPR活動を行った。また、令和4年10月19日には、MROの「絶好調W」で黒蜜姫の生産量確保の取組が放映がされたことなど、PR活動を推進した。 ・令和5年度には黒蜜姫を使用したふるさとCMがグランプリを獲得し、PRにつながった。 ・町独自の施策である「産地づくり事業」を展開し、ぶどう、いちじく、黒蜜姫、花木、紋平柿、すもも、チンゲンサイ、ミニトマト、白ねぎの栽培に係るハウスのビニル張替やハウスの新設、防除や剪定等の機械導入に対する支援を行い、町の特産品目の産地を将来に残すため、耕作面積の拡大を図った。令和4年度～令和6年度 ・後継者不足が生産者の生産意欲を減少させている中、ブランド化に取組む意欲のある生産者が少なくなっている。 ・生産者の減少により、生産量も減少し続ければ、産地として存続できなくなる。
今後の課題	・ブランド化を行いたい生産者等に対し、関係機関と連携し支援を行う組織づくりが課題である。 ・生産量の確保を図るための人の確保が課題である。 ・「黒蜜姫」の更なるブランディングを構築することで、町特産いちじくのブランド力の強化を目指していく。また、生産量の確保のため、生産者への支援も図っていく。 ・ルビーロマンやエアリーフローラについては、生産規模の拡大や商品化率向上等に必要な施設及び機械の導入支援をし、ブランド品目の生産拡大の加速化を図る。 ・R4年度からR8年度までの間は、町独自の施策として「産地づくり事業」を展開し、ぶどう、いちじく、黒蜜姫、花木、紋平柿、すももといった特産品の生産量の確保を図るため、生産者やJA各部会に対し、可能な限り支援していく。
内部評価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	2,302	4,895	23,132	22,065	15,298

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	9. 新規就農者支援事業		担当 部局	農林水産課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする		
	施策	新規就農者の確保		
事業内容	50歳未満の就農意欲を高め、経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保するため、国等の事業を活用し支援していく。また、農作物の栽培管理技術等の習得のための実務研修や里親制度の導入、営農に必要な農地や施設、機械の確保等の支援をするとともに、就農後も営農相談等の支援を町独自に行うことにより、新規参入者の確保定着（農力確保）に努める。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)		50.00%		0.00%		50.00%		0.00%		50.00%		30.00%	
	新規就農者		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
			2	1	2	0	2	1	2	0	2	1	10	3

実施した内容	・ J A はくいの 5 部会の総会時期にあわせて、意見交換を行い就農者の掘り起こしを行った。（いちじく部会、ぶどう部会、スモモ部会、花木部会、志雄施設園芸組合） ・ 定住就農を推進するため、地域おこし協力隊1名を採用し、R4年4月から3年間の活動を始めたことを皮切りに、9月から1名、11月からは2名の合計4名が定住就農に向けて活動している。 ・ 営農相談等の際に、新規就農に対する意見交換で就農者の掘り起こしを行い、令和6年度に1名の新規就農者が農業を始めた。令和7年度からは地域おこし協力隊の活動を終えた者が1名新規就農し、2名が新規就農する見通し。 ・ J A はくい押水いちじく部会やぶどう部会、押水花木部会とは、部会の役員会等に参加し定期的な意見交換を行っている。
今後の課題	・ 就農直後は経営的にどうしても不安定であることから、県、町、J A などのサポート体制を強化していく。 ・ 新規就農希望者が就農しやすい仕組みをつくる。 ・ 支援金の給付期間及び給付終了においても、営農が持続できるよう営農相談を行うなど、生産者や J A などの関係団体等と連携しながら取り組んでいく。 ・ 地域おこし協力隊の活動を通じ、新規就農者の確保を推進していく。
内 部 評 価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	7,500	7,500	7,125	6,000	2,125

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	10．民間賃貸住宅建設補助事業		担当 部局	地域整備課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	居住環境の整備		
事業内容	町内に民間賃貸住宅を新築する場合、補助金を交付することにより、町内に民間賃貸住宅の増加を促し、定住促進を図る。			

重要業績指標 (K P I)	民間賃貸住宅建築件数	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)	0.00%		0.00%		0.00%		0.00%		300.00%		60.00%	
	5年間で5件	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
		1	0	1	0	1	0	1	0	1	3	5	3

計画期間に 実施した内容	○民間賃貸住宅建設補助事業補助金 補助金額上限500万円、補助率1/2 ○民間賃貸住宅の建設促進を図るにあたり、単身世帯向けも想定し、1戸あたりの延床面積の要件緩和（50㎡以上→30㎡以上）を行うため、補助金交付要綱を改正し、令和3年4月1日から施行した。HP等で制度を周知している。 ○令和2～5年度の建築実績はなし 令和6年度実績 3棟建設：今浜地内（1棟4戸）、小川地内（2棟10戸）
今後の課題	○制度の周知に努め、建設の促進を図る。
内部評価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	0	0	0	0	13,340

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	11. 宝の住まいる応援事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	居住環境の整備		
事業内容	①本町に定住するため、新築又は建売住宅等を購入した若者又は移住者に対し、奨励金を交付し、定住促進を図る。 ②町内の民間賃貸住宅に入居する若者（新婚・子育て世帯）に対し、家賃補助を行い、入居者の生活を支え、定住促進を図る。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		193.33%		140.00%		80.00%		180.00%		213.33%		161.33%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
	町外からの転入世帯数 (15件／年)	15	29	15	21	15	12	15	27	15	32	75	121

計画期間に 実施した内容	<民間賃貸住宅家賃補助金> 月額家賃の補助率：月額上限1.5万円（最大36か月間） 申請件数：83件(内、町外からの世帯数 22件) 【R2 16件(8件)、R3 22件(6件)、R4 16件(0件)、R5 14件(3件)、R6 15件(5件)】 <マイホーム取得奨励金> 支給額：R2～R3 100万円、R4～R5 120万円、R6.1.1～被災者150万円、R6～150万円 加算額：新築・建売購入の際に町内業者活用の場合50万円 45歳以下の町外からの転入1人につき20万円を加算(加算限度額100万円) 申請件数：155件(内、町外からの転入世帯数 99件) 【R2 32件(21件)、R3 21件(15件)、R4 19件(12件)、R5 36件(24件)、R6 47件(27件)】 被災者：19件【R5 1件、R6 18件(8件)】
今後の課題	マイホーム取得奨励金は住宅取得支援としては、県内他市町と比較しても充実した内容となっている。他制度とも連携し、転入世帯増加に向けて、ホームページやSNSも活用し効果的な周知を行う。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	43,319	29,672	31,022	54,800	82,502

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	12. 宅地造成事業		担当 部局	地域整備課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	居住環境の整備		
事業内容	若者をはじめとする移住希望者が、本町の恵まれた自然環境を活用した住環境の中で、安心・安全、健全で快適な生活を営むことができる住宅建設の基盤となる宅地を造成する。			

重要業績指標 (KPI)	分譲区画数	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)	0.00%		0.00%		30.00%		0.00%		0.00%		6.00%	
	5年間で50区画	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
		0	0	5	0	10	3	15	0	20	0	50	3

計画期間に 実施した内容	○第2次宝達志水町総合計画では、住み続けられるまちづくりを基本計画として、良質な生活基盤の充実を図るため、町民が暮らしやすい住環境の整備に向けて、宅地分譲を行うこととしている。 ○令和2年度は、町内における住宅団地の適地を調査することを目的として、住宅団地適地調査業務を行った。 ○令和3年度は、町営住宅河原団地において敷地境界確定測量及び土地表題・分筆・合筆登記を行った。 ○令和4年度は、町武道館横のムラケン跡地に町営住宅（細見団地）を建て替えるため、町営住宅整備基本計画策定・基本設計業務、造成等に必要な測量、地質調査を行った。同跡地の北側に町営住宅を建設する計画となった。 町営住宅河原団地隣接地2区画を令和4年10月3日から財政課で分譲したところ1区画が令和6年4月16日に売却となった。 旧ALT住宅1区画を令和5年2月1日から財政課で販売したところ、令和5年4月28日に売却となった。 ○令和5年度は、細見団地の実施設計に合わせ、住宅団地の造成に必要な道路、下水道の設計を行った。 ○調査では、30歳代の子育て世代をターゲット像とし、災害に対する安全性等が確保される区域において、利便性、快適性、安全性の3つの視点から、住宅用地として開発可能な地域を抽出し、さらに現地の状況や敷地の規模、上下水道の整備状況等も考慮し、住宅団地の候補地を選定している。結果、令和3年12月24日、令和4年5月27日の町長ヒアリングにおいて、ムラケン跡地で町営住宅を建設し、その残地を原則今池方式を基に宅地分譲する方針を決定した。 ○現在の町有地の販売状況から、売却までに時間がかかることが予想されるため、町営住宅以外の用地を住宅分譲するにあたり、町が道路・上下水道を整備し、区画割りや分筆を行うことになった。 ○令和6年度当初予算に、宅地造成及び上下水道整備の工事費を要求したが、令和6年能登半島地震の影響により建設予定地が被災したため住宅整備関係はすべて見送りとなった。												
今後の課題	○宅地造成の実施方針についての整理が必要												
内部評価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）												

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	4,510	1,006	5,677	2,222	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	13. 空き家バンク事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	居住環境の整備		
事業内容	①バンクに登録する空き家を募集し、物件の現状調査を行い、随時バンクへ登録し、希望者が随時閲覧可能な環境を整備する。 ②空き家バンクに登録されている空き家の改修に要する経費の一部を助成することにより定住促進を図る。			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		達成度 (%)		260.00%		140.00%		560.00%		300.00%		640.00%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
	空き家バンク利用による 移住者数 (5人/年)	5	13	5	7	5	28	5	15	5	32	25	95

計画期間に 実施した内容	1 空き家バンク制度の周知及び登録件数の増加を図るため、広報・ホームページ、固定資産税納税通知書に同封した啓発チラシ等による制度の周知。 2 移住コーディネーター（地域おこし協力隊）による空き家登録・利用に係る申請者への仲介。 3 空き家バンク登録奨励金（実績R3：3件、R4：12件、R5：18件、R6：16件） 区の仲介で、空き家バンク登録された場合、区と所有者に奨励金2万円ずつ交付 4 空き家改修費等助成金（実績R3：2件、R4：1件、R5：0件、R6：0件） （1）改修費：上限100万円（町内業者）、上限50万円（町外業者） （2）家財道具撤去：上限10万円（令和7年度から上限30万円） （3）清掃費用：上限3万円 ※その他：45歳以下の町外からの転入1人につき20万円を加算（加算限度額100万円） 5 空き家バンク登録件数（実績R3：13件、R4：17件、R5：34件、R6：20件） 空き家バンク成立件数（実績R3：4件、R4：15件、R5：24件、R6：28件）
今後の課題	空き家バンクへの登録は増加傾向にあったものの、令和6年度は減少した。空き家物件の利用増により、町内の空き家総数自体が減少している可能性もあるが、移住者からの空き家利用のニーズは高いため、住宅や店舗等として利用可能な空き家の掘り起こしに引き続き取り組んでいく必要がある。 空き家バンクの登録後、売買・賃貸が進まない物件があるため、空き家所有者に対して金額の引き下げや状態が悪い物件は登録抹消の提案など、移住コーディネーターと連携して、取り組んでいきたい。
内部評価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	1,364	826	960	1,044	962

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	14. 若者通勤サポート事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	町外通勤者への支援		
事業内容	若年世代の町民で、金沢市以南及び県外の就労場所に通勤している方に対し、補助金を交付することで、転出する若者の抑制を図る。 通勤者1人につき年間2万円。			

重要業績指標 (K P I)	若者通勤サポート事業利用件数		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)		100.00%		114.29%		100.00%		70.00%		67.14%		90.29%	
	70人／年		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
			70	70	70	80	70	70	70	49	70	47	350	316

計画期間に 実施した内容	若者の定住を促進するために、町内在住の18歳～30歳未満で金沢以南、県外に就業している者に対し、通勤サポートを行う。 補助金額：2万円／年 申請件数：316件【R2 70件、R3 80件、R4 70件、R5 49件、R6 47件】 申請数増加を目指しホームページや広報誌を活用し、周知を行った。また、二十歳の誓いの参加者に対し制度内容のチラシを配布し、制度に対するアンケートも実施した。
今後の課題	申請数は減少傾向にある。今後は制度の周知に一層努め、申請数の増加を図る。 また、二十歳の誓い参加者を対象としたアンケートでは、当該制度が若者定住への効果が「大いにある」と「多少ある」との回答が約70%、通勤先によっては「制度を利用し町内からの通勤を検討する」との回答が約30%あった。今後も引き続き事業を推進し、必要に応じて制度内容の見直しを行う。
内部評価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	1,408	1,606	1,407	987	944

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	15. 奨学金返済助成事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	本町とのつながりを築き、本町への新しいひとの流れをつくる		
	施策	若者の地元定着の促進		
事業内容	町内への定住促進を図るため、大学等の卒業後、町内に定住した方を対象に、在学中に借り入れた奨学金の一部を補助する。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		0.00%		0.00%		0.00%						0.00%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
	若者定住促進奨学金返済助成者数	0	0	5	0	10	0	15		20		50	0

計画期間に 実施した内容	R4年11月、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にて、前年度事業評価を行った結果、「廃止」が妥当という提言を受け、当面は事業廃止とする方向であったが、3月議会において、検討する方向に進んだ。 R5年7月、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にて改めて前年度事業評価を行った結果、昨年度と変わらず「中止・終了」の採決を受けた。事業はR5年度より中止となっている。
今後の課題	第3期総合戦略への継続はなし。 また、国は給付型奨学金制度に着手しており、近隣市町を含め、今後の動向を注視していく。
内 部 評 価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	0	0	0		

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	16. 子育て世代包括支援センター活用事業		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援		
事業内容	子育て世代が孤立し悩みを抱え込まないよう、妊娠期から出産・育児まで切れ目のない支援を実施する。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)		0. 00%		200. 00%		159. 64%		150. 50%		－	
	利用者の満足度 (6点以上の評価者の割合)		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
				準備段階	50%	100%	55%	87. 8%	60%	90. 3%	70%	－

計画期間に 実施した内容	【「母子モ」アプリ】 デジタル化やペーパーレス化への取り組みとして、R2.8月～町のお知らせやイベント通知等、子育て支援の充実を図る発信媒体として導入した。 (1) 子育てイベント等に関する情報の配信や町のHPの閲覧・アンケート回答・Web予約を導入するなどした。 (2) 登録者数（ユーザー累計数） R2:62人、R3:119人、R4:142人、R5:181人、R6:226人 【満足度アンケート】 (1) 4か月健診対象の保護者に対し「子育て世代包括支援センター満足度アンケート」を実施（R3～R5年度まで） (2) 質問項目は全部で5問で満点を10点とし、6点以上の割合をKPIとした満足度アンケート 平均点 R3:8.2点 R4:7.2点 R5:7.7点
今後の課題	(1) R6.4月から「こども家庭センター」が設置され、「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の機能を集約し、妊娠期から子育て期への切れ目のない支援の充実を図っている。 (2) 必要に応じてサポートプラン等を活用しながら、個々に応じた支援や、関係機関との連携強化に努める。 R7.4月から妊婦への経済支援強化として「妊婦のための支援給付交付金」の創設に伴い、オンライン申請を導入予定。 今後、アンケートの回答や申請をロゴフォームを活用し、「母子モ」アプリとの連携を図りながら適切な対応となるよう努める。
内部評価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	4,497	4,497	8,327	7,819	463

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	17. 不妊治療費助成事業		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援		
事業内容	令和4年度より不妊治療が保険適用となったが、自己負担額が高額になる場合もあるため、新たな助成制度を設置し不妊治療受診者負担軽減を図る。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
		107.14%		126.67%		93.75%		94.12%		27.78%		87.50%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
	不妊治療費助成申請件数	14	15	15	19	16	15	17	16	18	5	80	70

計画期間に 実施した内容	【不妊治療費助成】 <R2～R4まで> (1) 一般不妊治療費助成(タイミング療法・人工授精など) 1年あたり10万円限度、連続する2年間まで助成。 12件(R2:8件、R3:4件) (2) 特定不妊治療費助成(体外受精・顕微授精など) 石川県の助成を受けた夫婦を対象として、1回の治療につき上限100万円(県助成額を除いた額)を助成。32件(R2:7件、R3:15件、R4:10件) <R4～> ※R4.4月から基本的な不妊治療が保険適用となったことに伴い、町の助成制度を変更。 (1) 町独自事業：保険適用として実施した特定不妊治療費について、1回につき上限2万5千円まで助成。(年に2回まで) 14件(R4:4件、R5:8件、R6:2件) (2) 補助事業：(1)に付随して実施した先進医療費について、1回につき上限15万円まで助成。 9件(R4:0件、R5:6件、R6:3件) 【不育治療費助成】 1年度につき上限30万円までを助成。 3件(R2:0件、R3:0件、R4:1件、R5:2件、R6:0件) *対象者：戸籍上の夫婦または事実婚の夫婦のうち、両者または一方が治療期間中及び申請時に当町に住所を有すること *所得制限：なし
今後の課題	住民のニーズを確認しながら、助成対象者の拡大も検討していく。R7年度から町独自事業の助成回数を年3回までに拡充。保険適用後も、子育て世帯等が安心して子どもを産み育てることができるよう、助成事業の周知と充実を図る。
内部評価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	4,103	5,350	3,587	592	128

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	18. 未就学児の教育保育の質の向上		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	子ども・子育て支援の充実		
事業内容	子どもたちの発達に見合った教育・保育を実施する。保育・教育の内容は認定こども園がそれぞれの独自性を発揮して考案することを土台とし、その上で外部の意見を取り入れながら質の向上を図る。			

重要業績指標 (K P I)	子ども子育て支援アンケート満足度の向上	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)									94.29%	
	満点5点 3.5点 (良い)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		-		-		-		-		3.5	3.3

計画期間に 実施した内容	【主な事業】 (1) 3歳児リトミック教室 (4保育所：年8回) (2) 4歳児キッズスポーツ教室 (4保育所：年8回) (3) 5歳児英語教室 (4保育所：年8回) ※能登半島地震後は3保育所で実施 (4) 4, 5歳児を対象としたフッ化物洗口うがいを実施 【施設整備】 (1) インターネットのWi-Fi環境を整備 (2) インターネット対応のテレビの導入 【コドモンの活用】 (1) 令和2年度に導入し、感染状況や災害時の必要な情報、安否確認などに活用。 (2) アンケート調査や登園管理をはじめ連絡ツールとして活用。令和6年度からコドモンで写真販売を実施。
今後の課題	(1) インターネットを活用した幼児教育の取組を検討し、こども園の独自性を図る。 (2) コロナ禍で縮小した地域との交流や行事を見直し、特色のある保育環境の充実を検討する。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	-	-	-	-	-

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	19. 児童遊戯施設整備事業		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	子ども・子育て支援の充実		
事業内容	平成31年2月に実施した子育てニーズ調査において、未就学児・就学児が遊べる施設の整備を望む声が多数（※1）を占めていること、及び友達との交流や遊びを通じた運動などは心身の発達に重要であることを鑑み、屋内型の児童遊戯施設の建設を検討する。 ※1 未就学児の保護者で72.0%、小学生の保護者で50.9%			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		達成度 (%)		100.00%		50.00%		83.33%		87.50%	
	進捗率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		20	20	40	20	60	50	80	70	100	100

計画期間に 実施した内容	(1) 屋外児童遊戯施設の安全対策を考慮し、新たに築山の滑り台、ゴムチップによるキッズバイクコース等の遊具を設置した。 (2) 未就学児、就学児がともに遊べ、誰でも気軽に立ち寄れる憩いと交流の場の確保と施設の充実を図った。
今後の課題	(1) 屋内児童遊戯施設の設置にあたり、町こども計画を策定し、計画的な取組となるよう推進する必要がある。 (2) 施設の運用では、適切な維持管理、対応が期待できる管理者への委託を検討する。
計画期間に 実施した内容	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	759	0	78,465	16,390	0

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	20. 宝たち成長お祝い事業		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	子ども・子育て支援の充実		
事業内容	＜出産祝金＞第1子以降の出産に対し、出産祝金を贈ることで、合計特殊出生率の引き上げを促進する。 ＜成長祝金＞町の宝である子どもたちの成長を祝うとともに、若者が安心して子育てが出来るよう、子どもの成長に合わせ祝金を贈る。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		76.36%		92.73%		65.45%		69.09%		72.73%	
	年間出生数 (H29～R1の平均：55人)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		55	42	55	51	55	36	55	38	55	40

計画期間に 実施した内容	【出産祝金】 (1) 出生届の届出人（申請者）に対し、祝金として現金10万円とポイントカード会金券5万円分を贈る。 (2) 出生日が転入から1年以内の場合は出産日から1年経過後に申請可能。 (3) 商品券郵送時に宝達志水町ポイントカード会作成 の加盟店を記載したチラシを同封。 (4) 申請件数：198人（第1子:75人、第2子以降:123人） R2:40人(第1子:10人、第2子以降:30人) R3:49人(第1子:23人、第2子以降:26人) R4:36人(第1子:15人、第2子以降:21人) R5:34人(第1子:10人、第2子以降:24人) R6:39人(第1子:17人、第2子以降:22人) 【成長祝金】 (1) 各年齢（6歳、12歳、15歳、18歳）に達する児童・生徒及び保護者で町内に1年以上住所を有する場合（基準日：2月1日）、その保護者に祝金として一律3万円を支給。 (2) 12月中に対象者へ案内し、翌1月中に申請。申請内容審査後、3月中に口座振り込みにより支給。R6年度よりオンライン申請へ変更。 (3) 申請件数：1,753人(6歳:332人、12歳:408人、15歳:465人、18歳:548人) R2： 385人(6歳：75人、12歳:100人、15歳：95人、18歳:115人) R3： 361人(6歳：57人、12歳：84人、15歳：92人、18歳:128人) R4： 358人(6歳：65人、12歳：73人、15歳:101人、18歳:119人) R5： 344人(6歳：66人、12歳：85人、15歳：97人、18歳：96人) R6： 305人(6歳：69人、12歳：66人、15歳：80人、18歳：90人)
今後の課題	(1) 対象者アンケートでは「良かった」「続けてほしい」の意見が大半であるものの、当事業のみで出生数の増加を図ることは難しく、子育て環境の向上を下支えする事業として継続していきたい。 (2) R6年度よりアンケートの回答をオンラインで実施したが、回答率は低く、申請と同時に回答欄を設ける等の工夫が必要である。
内部評価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	17,555	18,267	16,199	15,476	1,494

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	21. 宝たち検定チャレンジ事業		担当 部局	学校教育課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	検定受検料補助事業		
事業内容	各種検定を受検する児童生徒の保護者へ検定料を補助することで保護者の負担軽減を図る。また、上級合格者を表彰することで児童生徒の挑戦意欲や学習意欲の向上を図る。1人につき当該年度中複数回補助金の交付を受けることが出来る。			

重要業績指標 (K P I)	中学校生徒の英語検定 3 級以上の取得率	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成率 (%)	46.67%		70.00%		53.33%		66.67%		63.33%	
	生徒数の30%	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		30%	14%	30%	21%	30%	16%	30%	20%	30%	19%

計画期間に 実施した内容	- 各種検定（英語検定、漢字検定、数学・算数検定、理科検定）を受検した町内小中学校に在籍する児童生徒の保護者へ、2級以上は検定料の全額、準2級以下は検定料の半額を補助した。また、令和6年度は中学1年生全員に英検5級受検の機会を設け、検定料を全額補助した。 【中学生】 受検率 R2:55.9% R3:53.7% R4:47.3% R5:44.4% R6:74.1% 申請率 R2:59.7% R3:53.9% R4:58.3% R5:53.6% R6:70.9% 【小学生】（団体受検を実施していなかったため、受検数と申請数が同数となる。） 受検人数・件数 R2:3名5件 R3:5名6件 R4:10名13件 R5:20名32件 R6:16名20件 - 令和4年度から上級に合格した児童生徒を表彰した。 表彰対象 中学生…準2級以上 小学生…5級以上（ただし、漢検5級をのぞく） 受賞者数 中学生 R4:21人 R5:13人 R6:19人、小学生 R4:7人 R5:12人 R6:8人
今後の課題	令和7年度から準2級を半額補助から全額補助に拡充する。加えて中学2年生全員に英検4級、中学3年生全員に英検3級受検の機会を設け、中学生全員が英検を受検し、検定料を全額補助する。 さらに、小学生の団体受検の実施を検討している。
内 部 評 価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	262	294	295	269	543

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	22. 宝たちビジネスアカデミー		担当 部局	生涯学習課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	教育環境の充実		
事業内容	小学生を対象として、模擬株式会社を設立し、商品開発、販売、決算等の一連の流れを体験することにより、学校での学習の意義の再認識や、社会、株式、税金、金利等の仕組みを学ぶ機会を創出することで、未来の町を担う「人財」を育成する。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)		0.00%		100.00%		100.00%		100.00%		100.00%		80.00%	
	5年間で5件		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
			1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	5	4

計画期間に 実施した内容	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止として、令和4年度同様、町内業者が各小学校へ講師として出向き、「仕事」について授業を(体験含む)行い、児童の学習の場を拡げた。 授業が児童や先生から好評であり、町教育委員からの評価も高い。対象学年は変更しないが、コロナ禍となったことで、本来の5名の児童が1チームとなり、準備から撤去までを体験する実践形態から、1学年全員が短時間で地元業者から学ぶ形態に内容を変更している。変更した形態でも評価は高く、児童からも好評である。
今後の課題	本来の事業内容を変更した現状の内容で継続を図り、地元業者とのつながりと学びの場の提供を図っていくことが重要である。 商工会や地域の経営者など、地域とのつながりがもてる取り組みを継続する。 この事業による体験が、将来、地元扎根した企業やビジネスを起こすきっかけづくりとなるように、必要な支援の充実を図る。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	0	32	84	84	81

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	23. 宝の縁結び事業		担当 部局	子育て応援室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
	施策	結婚支援の充実		
事業内容	結婚アドバイザーが、結婚相談登録者のマッチング及び結婚相談アドバイスを行う。 成婚祝金、報償金の交付及び婚活イベントを実施した団体に補助金を交付する。			

重要業績指標 (K P I)	婚活支援事業による婚姻数	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)	0.00%		0.00%		50.00%		0.00%		0.00%		10.00%	
	5年間で20件	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
		4	0	4	0	4	2	4	0	4	0	20	2

計画期間に 実施した内容	【結婚アドバイザー】町内5人登録（うち2名活動） 【結婚相談登録者】町内22人（男性19人、女性3人）※令和7年3月末現在 【事業】 (1) 結婚相談登録者との面談回数：26回(R2:6回、R3:3回、R4:10回、R5:4回、R6:3回) (2) 結婚相談登録者のお見合いの立ち合い：76回(R2:20回、R3:12回、R4:24回、R5:12回、R6:8回)、成婚祝金：実績なし ※結婚アドバイザーが結婚相談活動を行った時に提出する活動報告書により確認（令和6年4月分～令和7年3月分） (3) いしかわ縁結びマッチング登録料補助金交付要綱を制定：「あいきゅん」の登録料を半額補助する。※実績なし R6年度からオンライン申請を導入。
今後の課題	- 令和6年度は結婚相談の予約が1件にとどまり、いしかわ縁結びマッチング「あいきゅん」助成の申請も0件となった。 - 石川県が実施するいしかわ縁結びマッチングシステム「あいきゅん」への登録により、県内全域を対象にしたイベントやマッチング、お見合いが可能となり効果が期待できるため、登録を促す周知・啓発への取り組みを強化する。 - いしかわ結婚支援センターと連携し「あいきゅん」を周知する。その上で、マッチングシステム登録料の半額を助成することで、町内在住の「あいきゅん」登録者を増やし、自由に相手探しやお見合いなどで出会いの機会やマッチングの増大を図り、出会い・結婚の促進につなげる。 - 結婚相談、婚活セミナー、結婚アドバイザー養成講座を開催する。 - SNS等を活用して定期的に発信し、性別・世代問わず誰もが気軽に婚活情報を取得できるようにする。
内部評価	×：達成度50%未満（成果が乏しく、抜本的な見直が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	147	120	419	211	123

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	24. 一般介護予防事業		担当 部局	健康福祉課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	自立支援・重度化防止に向けた取組の強化		
事業内容	高齢者を対象とした「地域のサロン」や介護予防教室等、通いの場の更なる充実を進め、介護予防の推進や自立した生活を目指す。また、送迎付きの介護予防教室を充実させ、社会参加や生きがいづくりを支援し、認知症予防や生活機能の低下を防ぐ。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		86.75%		77.11%		73.20%		61.64%		63.33%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
	保険者のインセンティブにおける評価指標	40.0	34.7	45.0	34.7	50.0	36.6	55.0	33.9	60.0	38.0

計画期間に 実施した内容	・送迎付き介護予防教室の開催：延べ414回（R2:67回・参加者19人・延べ297人、R3:83回・参加者18人・延べ510人、R4:87回・参加者17人・延べ476人、R5:89回・参加者15人・延べ357人、R6:88回・参加者13人・延べ339人） ・送迎付き介護予防教室は感染症対策を行いながら活動を継続している。R6.1.1地震以降、会場を一部変更して教室実施。 ・介護予防サポーター研修会：延べ5回、参加者延べ72人（R2:16人、R3:19人、R4:14人、R5:12人、R6:11人） ・地域介護予防活動支援事業（健康づくり推進員地区活動への補助）：介護予防教室の開催延べ191回、参加者延べ5,540人（R2:37回・650人、R3:29回・1,101人、R4:44回・2,000人、R5:26回・562人、R6:55回・1,227人） ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施（R4年度）：65歳以上住民1,000人に実施、有効回答数543件（54.3%） ・地域サロンへの活動支援：新型コロナウイルス感染症への感染防止対策・再開支援・買い物マルシェの導入など ・県理学療法士会による地域サロン活性化への活動支援：サロン4カ所へ体力測定・健康教育を実施 ・専門機関と連携して65歳以上の介護保険サービスを利用していない者の健診等のデータを分析し、要介護者となりやすいハイリスク高齢者488人を抽出。令和7年3月に第1回目の介護予防教室実施。
今後の課題	・地域サロンや介護予防教室等の地域の通いの場を増やし、自立した生活ができるための介護予防が出来る仕組みづくりが必要。 ・介護予防サポーターの高齢化が顕著であり、人数も減少傾向にあるため新たなサポーターを養成し、新陳代謝を図る必要がある。 ・介護予防事業運営を県理学療法士会と協働で実施し、地域での介護予防活動を活性化させる。 ・要介護者となりやすいハイリスク高齢者に対して、要介護状態にならず、住み慣れた地域で自立した日常生活が継続できるよう、デジタルを活用した介護予防事業を実施する。
内 部 評 価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	2,582	1,736	3,252	1,838	13,064

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	25. 認知症総合支援事業		担当 部局	健康福祉課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	自立支援・重度化防止に向けた取組の強化		
事業内容	高齢者が安心して生活できるよう、認知症の早期発見、早期対応の体制を整備し、家族等の負担を軽減できるよう認知症施策を推進する。認知症の理解を深めるための知識の普及・啓発を行ない、地域の見守り体制や相談窓口の充実などの支援体制を整備し、認知症の人に優しい町づくりを目指す。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度(%)		107.25%		90.89%		157.20%		155.82%		101.67%	
	保険者のインセンティブにおける評価指標		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
			40.0	42.9	45.0	40.9	50.0	78.6	55.0	85.7	60.0	61.0

計画期間に 実施した内容	・ 認知症サポーターの養成：2,883人(R2:65人、R3:250人、R4:275人、R5:163人、R6：208人) ・ 認知症カフェの開催：回数：123回(R2:16回、R3:32回、R4:24回、R5:16回、R6：35回) 参加人数：1,020人(R2:79人、R3:222人、R4:201人、R5:130人、R6:388人) ・ 認知症フォーラムの開催：参加者363人※R5能登半島地震により中止 (R2:79人、R3:66人、R4:110人、R6:108人) ・ 認知症地域支援推進員の配置：14人※R7.3 時点(R2:9人、R3:11人、R4:13人、R5:13人) ・ 認知症見守り支援事業：どこシル伝言板登録者及びSOSネットワーク登録者22人(R2:10人、R3:4人、R4:1人、R5:4人、R6:3人) ・ 認知症初期集中支援チームによる相談支援：11件(R2:5件、R3:4件、R4:0件、R5:2件、R6:0件)
今後の課題	高齢化に伴い、認知症高齢者が増加している。高齢化率40.4%（令和7年3月末）。令和6年度要介護認定者633人のうち、認知症状のある人は418人（認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上）であり、全体の約66.0%を占めている（令和7年3月時点）。認知症の人と家族を地域で支える相談体制の充実や、それを支援する社会資源や地域の見守り体制整備が必要。 ・ 相談窓口の周知、認知症カフェ等の居場所づくり ・ 地域の見守り体制強化のために、認知症フォーラムの継続開催や、SOSネットワーク事業を普及させる ・ 認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を開催し、認知症の人やその家族を支える支援体制（チームオレンジ）の構築と活用を発展させる。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	1,107	1,163	818	748	1,914

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	26. 在宅医療・介護連携推進事業		担当 部局	健康福祉課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	健康寿命延伸等に向けた在宅医療・介護の連携充実		
事業内容	医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で安心して住み続けるため、在宅医療・介護の現在ある課題とそれを解決するための対応策について、多職種と連携し検討を行う。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)		127.00%		119.33%		119.75%		112.94%		100.00%	
	保険者のインセンティブにおける評価指標		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
			70.0	88.9	75.0	89.5	80.0	95.8	85.0	96.0	90.0	90.0

計画期間に 実施した内容	- 令和4年より地域包括支援センター内に在宅医療・介護連携コーディネーターを配置：1人 【相談支援 R4：53件、R5：61件、R6：68件】 - 在宅医療・介護関係者の情報共有：退院時支援ルールの作成・活用 - 地域の医療・介護資源の把握：「医療と介護のガイドブック」の作成・更新 - 緊急医療体制の整備：独居高齢者および高齢夫婦世帯への救急医療情報キットの配布 延べ739人 - 在宅医療介護連携フォーラム（終末期ケアフォーラム 在宅における「いのちのケア」について）の開催 【参加者 R2：90人、R3：107人、R4：79人、R5：93人、R6：80人】 - エンディングノートの作成、配布（窓口や終末期ケアフォーラムにて配布）
今後の課題	- 入退院支援ルールの周知が不十分であり関係機関において適切な運用がなされていない。現状の把握を行い、今後の運用方法について検討していく。 - 救急医療情報キットの配布者は増加しているが、R5年度以降に消防からの実績報告がなく適切な活用がなされていない。キットの運用実態や必要性、今後の事業展開について消防等の関係機関と協議を行う必要がある。 - エンディングノートが終末期の意思決定支援のためのツールとして十分に活用されていない。広報への掲載だけでなく、住民の通いの場で紹介するなど新たな周知方法について検討していく。エンディングノートの内容に関しても住民が活用しやすいよう見直していく必要がある。
内 部 評 価	◎：達成度90%以上（的確に事業が実施され、十分な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	1,583	2,813	2,109	3,026	3,825

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	27. 地域包括支援体制の整備		担当 部局	健康福祉課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	健康寿命延伸等に向けた在宅医療・介護の連携充実		
事業内容	高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けるため、サービスの基盤づくりを推進し、地域包括支援センターの機能強化や地域の支えあいのネットワークづくり等を推進する。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		107.60%		93.82%		126.33%		144.46%		100.00%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
保険者のインセンティブにおける評価指標		50.0	53.8	55.0	51.6	60.0	75.8	65.0	93.9	70.0	70.0

計画期間に 実施した内容	・総合相談支援：延べ1,497件(R2:326件,R3:260件,R4:319件,R5:312件,R6:280件) ・介護予防ケアマネジメント(ケアマネ相談支援)：延べ766件(R2:358件,R3:191件,R4:167件,R5:30件,R6:20件) ・地域ケア会議：延べ290件(R2:63件,R3:61件,R4:57件,R5:57件,R6:52件) ・食の自立支援事業：延べ88人、延べ16,299食 (R2:22人・延べ3,330食,R3:21人・延べ3,583食,R4:14人・延べ3,461食,R5:18人・延べ3,284食,R6:13人・延べ2,641) ・緊急通報装置設置：40人(R2:13人,R3:10人,R4:7人,R5:5人,R6:5人) ・認知症カフェ参加者：延べ1,020人(R2:79人,R3:222人,R4:201人,R5:130人,R6:388人) ・見守りネットワーク：避難行動要支援者名簿作成、個別避難計画策定 ・福祉座談会：令和2～3年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止。令和4年度再開し区長・民生児童委員が要支援高齢者への支援について情報交換会実施。 上記の各種会議や情報交換会から高齢者の地域課題を把握し必要な取組につなげた。また、総合相談や地域ケア会議を通じて高齢者の個別課題を把握し、地域の見守りネットワーク体制の整備を推進した。
今後の課題	独居や高齢夫婦のみ世帯、認知症高齢者の増加から複合的な課題を抱え、介護・福祉サービスだけでは対応が難しいケースが増えている。 ・総合相談支援を充実し、フォーマル・インフォーマルサービスを含めた地域ぐるみの支援策や見守りネットワークの構築・強化を図る。
内 部 評 価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	6,691	7,984	5,761	4,803	5,260

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	28. 健康増進事業（がん検診）		担当 部局	健康づくり推進室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	健康づくりの推進		
事業内容	がん検診の推進により、がんの早期発見・早期治療に努め、健康寿命の延伸を目指す。			

重要業績指標 (K P I)		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)	87.00%		79.50%		85.85%		81.95%		75.71%	
	胃がん検診受診率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		20	17.4	20	15.9	20.5	17.6	20.5	16.8	21.0	15.9
	達成度 (%)	78.50%		82.86%		85.91%		81.74%		75.83%	
	肺がん検診受診率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		20.0	15.7	21.0	17.4	22.0	18.9	23.0	18.8	24.0	18.2
	達成度 (%)	81.50%		85.24%		88.64%		83.91%		77.50%	
	大腸がん検診受診率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		20.0	16.3	21.0	17.9	22.0	19.5	23.0	19.3	24.0	18.6
	達成度 (%)	95.00%		91.22%		105.71%		99.53%		90.00%	
	子宮頸がん検診受診率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		20.0	19.0	20.5	18.7	21.0	22.2	21.5	21.4	22	19.8
	達成度 (%)	95.00%		90.20%		102.40%		100.78%		96.15%	
	乳がん検診受診率 (%)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		24.0	22.8	24.5	22.1	25.0	25.6	25.5	25.7	26.0	25.0

計画期間に 実施した内容	がん検診 ●集団健診(会場2箇所) 15回 (6, 7, 10月) ●個別検診(女性がんのみ、県内の指定医療機関) 7月～11月 ●集団検診 胃がん検診受診者:延べ3,090人(R2:621人、R3:657人、R4:638人、R5:614人、R6:560人) 肺がん検診受診者:延べ4,534人(R2:841人、R3:931人、R4:936人、R5:930人、R6:896人) 大腸がん検診受診者:延べ4,669人(R2:874人、R3:958人、R4:969人、R5:951人、R6:917人) 乳がん検診受診者:延べ1,585人(R2:256人、R3:387人、R4:298人、R5:369人、R6:275人) 子宮頸がん検診受診者:延べ1,301人(R2:223人、R3:308人、R4:270人、R5:278人、R6:222人) ●個別検診 乳がん検診受診者:延べ170人(R2:26人、R3:30人、R4:38人、R5:40人、R6:36人) 子宮頸がん受診者:延べ276人(R2:57人、R3:53人、R4:61人、R5:50人、R6:55人) ●検診未受診者への再勧奨 大腸がん検診はR3年度から、胃がん検診はR6年度から実施している。
今後の課題	全がん検診において、受診率の実績値はゆるやかに上昇傾向。今後も受診率向上対策を継続していく。 個人宛ての検診案内兼申し込みハガキの継続、未受診者への再勧奨にて受診率向上に努める。 広報特集ページ及びケーブルテレビを活用し、受診勧奨を工夫・強化し、がん検診の必要性を広く周知する。 健康づくり推進員等の地域住民との直接的な機会を通じ、がん検診の普及啓発に努める。
内部評価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	8,126	9,663	9,220	9,800	9,393

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	29. 健康増進事業（特定健診・保健指導）		担当 部局	健康づくり推進室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	健康づくりの推進		
事業内容	高齢者の医療の確保に関する法律により内臓脂肪の蓄積に起因した生活習慣病に関する健康診査及び特定健診の結果により健康の保持に努める必要がある者に対する保健指導の実施。			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)		116.00%		104.18%		94.74%		93.45%		80.05%	
	特定健診受診率 (%)	目標値		実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		50.0		58.0	55.0	57.3	57	54.0	58.0	54.2	60.0	48.3 (暫定)
	達成度 (%)		95.29%		87.12%		80.93%		85.71%		81.25%	
	特定保健指導率 (%)	目標値		実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
		70.0		66.7	73.0	63.6	75.0	60.7	77.0	66.0	80.0	65.0 (暫定)

計画期間に 実施した内容	特定健康診査 ・ 集団健診：延べ3,072人（R2:586人、R3:677人、R4:647人、R5:612人、R6:550人） ・ 個別健診：延べ1,256人（R2:298人、R3:261人、R4:254人、R5:227人、R6:218人） ・ 人間ドック：延べ72人（R2:9人、R3:15人、R4:13人、R5:18人、R6:21人） 特定健診未受診者対策 ・ 受領調査：延べ850件（R2:280件、R3:201件、R4:143件、R5:125件、R6:101件） ・ 事業主健診：延べ27件（R2:6件、R3:7件、R4:7件、R5:5件、R6:2件） ・ 持参、訪問：延べ393件（R2:123件、R3:105件、R4:56件、R5:52件、R6:57件） 特定保健指導 地区担当制にて保健指導を実施 ・ 特定保健指導終了人数：延べ363人（R2:94人、R3:84人、R4:67人、R5:64人、R6:54人見込み） ・ 健診結果説明会参加率：R4:45.2%、R5:44.4%、R6:44.5%
今後の課題	集団健診・個別健診のみでは受診率の向上は難しいため、特定健診未受診者対策を引き続き実施していく。特に40代、50代の受診率が低い ため、対象者台帳や重症化予防対象者の台帳を活用し受診勧奨を強化する必要がある。 特定保健指導率が目標を達成出来ていないため、計画的に保健指導を実施する必要がある。また、定期的に対象者名簿を作成し、対象者の 管理が必要である。
内 部 評 価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	10,729	10,235	10,906	11,690	11,597

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	30. 地域組織育成事業		担当 部局	健康づくり推進室
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らす事ができる魅力的な地域をつくる		
	施策	健康づくりの推進		
事業内容	健康づくり推進員や食生活改善推進協議会の活動を支援する			

重要業績指標 (K P I)			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	達成度 (%)		100.00%		94.44%		177.78%		200.00%		105.56%	
	食生活改善推進員活動 参加総数(回)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
		18	18	18	17	18	32	18	36	18	19	
	達成度 (%)		49.46%		115.00%		149.75%		106.80%		104.82%	
	食生活改善推進員活動 参加総数(人)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
		560	277	300	345	400	599	500	534	560	587	
	達成度 (%)		29.09%		135.00%		135.00%		61.82%		50.00%	
	健康づくり推進員活動 参加総数(回)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
		110	32	20	27	40	54	110	68	110	55	
	達成度 (%)		14.19%		117.80%		116.20%		78.10%		38.34%	
	健康づくり推進員活動 参加総数(人)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
		3,200	454	500	589	1,000	1,162	2,000	1562	3,200	1227	

計画期間に 実施した内容	・食生活改善推進協議会 児童クラブ・宝達高校・子ども認定保育園での「食育のチラシ」と「野菜の種子」の配布 各ブロックでのヘルシー&デリシャスメニューの普及活動 塩分濃度計を使った減塩普及活動 ・健康づくり推進員 感染症予防対策を確認しながら、安心した教室を開催 各ブロックでの健康体操・介護予防教室などの開催 防災の話・災害時の食事等 ・食生活改善推進協議会 活動回数：1 2 2 回 参加人数：2 3 4 2 人 (R2:18回・277人, R3:17回・345人, R4:32回・599人, R5:36回・534人, R6:19回・587人) ・健康づくり推進員 活動回数：2 3 3 回 参加人数：延べ5, 4 2 2 人 (R2:37回・650人, R3:29回・1,011人, R4:44回・972人, R5:68回・1,562人, R6:55回・1,227人)
今後の課題	・新規の担い手が少ない。会員の高齢化。 ・ブロックによって活動への意識の温度差がある。 ・町が抱える健康課題（肥満や糖尿病など）の改善に視点となる内容を含めた活動の充実を図る。 ・会員同士が情報交換ができるような研修会内容にする。
内 部 評 価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	632	277	355	365	415

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	3 1. 地域交通政策推進事業		担当 部局	企画情報課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる		
	施策	分かりやすく利用しやすい公共交通網の構築		
事業内容	時代に対応した公共交通網、高齢者の安心を支えるため、町民や公共交通事業者、関係機関と連携・協議しながら、より分かりやすく、より利用者のニーズに沿った公共交通網の構築を行う。			

重要業績指標 (K P I)	達成度 (%)	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		100.00%								95.23%	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
	利用者不満度の減少 (町民意識調査)	現状把握	33.66%	-		-		-		35.00%	33%

計画期間に 実施した内容	・宝達志水町地域公共交通協議会等の承認を経て、令和4年10月から地域公共交通の再編を実施し、宝寿荘に特化したコミュニティバスの運行、デマンドタクシーの運賃改定、南北シャトル便の新設を行い、町民の利便性の向上に努めた。 ・地域住民の「生活の足」を確保するため、町有バス運行業務（スクールバス運行経費、コミュニティバス運行経費、福祉バス運行経費）の実施、デマンドタクシー運行事業補助金の支弁を行った。なお、支払事務の適正化にも取り組み、令和4年度より町有バス運行業務の契約において、担当課ごとに予算額を振り分けることとした。 ・令和4年10月に再編した結果、デマンドタクシーの利用は徐々に増加している一方で、コミュニティバスの利用は減少しており、また、南北シャトル便については、利用者数が低迷している状況である。
今後の課題	・コミュニティバス利用者からの要望として、買い物利用等に対する利便性を高めて欲しいとの声があるが、スクールバスの空き時間を活用していることから、改善余地に限界がある。また、南北シャトル便について、実績を見ながら再編等も検討する必要がある。今後は、AIデマンド交通の導入も検討し、町民の利便性の向上に努めていく。
内 部 評 価	△：達成度50%以上70%未満（一定の成果を得たが、改善が必要である）

事 業 費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	70,501	71,371	29,055	48,161	46,023

第 2 期 総 合 戦 略 施 策 評 価 シ ー ト

事業名	32. 地域行事サポート事業		担当 部局	総務課
総合戦略の 位置づけ	基本目標	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる		
	施策	集落間の交流促進		
事業内容	・集落間の連携強化を図るとともに集落機能の維持確保のために必要な支援を行い、持続的に地域の暮らしを守ることを推進する。 ・さらに、地域が抱える諸課題に対応するため、産学官連携などの幅広い分野において連携強化を図ることにより、地域の自然環境等を活かした取組や人的支援を推進する。			

重要業績指標 (K P I)	ボランティア参加者数	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		累計	
	達成度 (%)	130.00%		150.00%		170.00%		200.00%		200.00%		170.00%	
	5年後で50人 (10人/年)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標	実績
		10	13	10	15	10	17	10	20	10	20	50	85

計画期間に 実施した内容	・第1期まち・ひと・しごと総合戦略の計画期間（H27～R1）において、北志雄地区（石坂、向瀬、走入、清水原、見砂）をモデル地区に選定し、集落間における課題等について協議検討を行ってきたところであり、集落間における除雪対応のため、一般コミュニティ助成事業を活用し、除雪機を整備（R1）している。 ・第2期まち・ひと・しごと総合戦略の計画期間においては、毎年地域行事サポート懇談会を開催し、除雪機を活用した集落間連携及び行政の支援体制等について協議を行った。 （R6活動実績） 除雪作業1回、桜維持管理作業1回
今後の課題	・集落支援員を中心として、地域が自発的かつ自立した集落間連携の取り組みを行うことが必要であり、引き続き行政からの情報提供等を含め、官民が連携して取り組む必要がある。 ・人口減少と高齢化がすすむ中、集落間連携に取り組む人員の負担が大きく、当該事業の継続は困難と判断した。しかし、集落間連携により効率よく作業をすすめるための方法について検討が必要である。（区長会総会時に「いしかわ農村ボランティア（受け入れ隊）を紹介）
内 部 評 価	○：達成度70%以上90%未満（一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ることができた）

事業費 (千円)	令和2年度決算額	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額
	110	108	109	106	110